

第51回 卒業証書授与式 校長式辞

中庭の梅の木にも早春の息吹が感じられる今日の佳き日、51回生の皆さんとの、寂しくも喜ぶべき別れの時がまいりました。

本日は、公私ともご多用の中、育友会長 常田 美由紀 様ほか、ここまで支えてくださいました保護者、ご家族の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立尼崎小田高等学校第51回卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますことを心から嬉しく思い、厚く御礼申し上げます。

ただいま卒業証書を授与しました266名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませう。この尼崎小田高校で過ごした年月は、皆さんにとってかけがえのない、思い出深いものであったと思います。卒業式に臨み、皆さんの胸の中には、文化祭、体育大会、修学旅行などの学校行事、日々の授業やボランティア活動、そして、仲間とともに頑張った部活動など、様々な思い出が走馬灯のようによみがえっているのではないのでしょうか。

特に新型コロナウイルス感染症の影響で、教育活動に様々な制限が加えられ、高校生活では当たり前だと思っていたことが、実は当たり前でなかったことを経験しました。そのような中でもあきらめることなく、たくさんの仲間と出会い、切磋琢磨しながら多くの達成感・充実感を味わうとともに、悩みや苦しみも経験する中で、大きく成長した3年間であったと思います。この3年間の思い出を、これからの人生の中で自分を高めていく良き糧として、心に残しておいてください。

さて、皆さんがこれから迎える時代は、知識の吸収にだけ長けていても活躍できない、自分で新しいものを創り上げていかなければならない時代。激しい変化が短いスパンで起こり、それに柔軟に対応する力を持たなければならない時代です。そして、そこでは、人間に対する誠実さや責任感、覚悟、そして、情熱等のマインドセットを持ち続けることが不可欠です。

これから日本国内のみならず、国際社会という大海原へこぎ出していく皆さんには、本校での学びを礎として、進みゆく社会の様々な場所で優れたリーダーシップを発揮し、その分野を牽引していただきたい。本日がその決意を固める記念すべき日となることを願います。

ここで、卒業される皆さんへ餞（はなむけ）の言葉を贈ります。

今、将棋の世界では藤井聡太竜王・名人が活躍し注目を集めていますが、将棋界で初の全タイトル独占を達成したのが羽生善治九段です。その言葉を借ります。

「何かに挑戦したら確実に報われるのであれば、誰でも挑戦するだろう。報われなくても知れないところで、同じ情熱、気力、モチベーションを持って継続しているのは非常に大変なことであり、私はそこが才能だと思っている。」

正しい答えのないものに対して挑戦することは、非常に大きなエネルギーを必要としますが、新しい世界を拓くことができます。それを実現するための強い武器となるのが、学力や数値で測ることのできない、主体性、コミュニケーション能力、やり抜く力、創造性などの力です。そしてそれらの力を支えるのが「夢」であり「志」です。どうか皆さん、大きな夢を持ち、高い志を掲げ、これからの人生をたくましく歩んで下さい。

最後になりましたが、保護者の皆様一言申し上げます。お子様には3年間の努力が実って本日のご卒業を迎えられたこと、誠におめでとうございませう。私どもは、お子様をお預かりして3年間、不十分な点もあったかとは思いますが、全力で教育にあたってまいりました。ここにいたるまでに賜りましたご理解、ご支援に対し、この場を借りて深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時がきました。皆さんの人生は素晴らしいものであるとともに、時には厳しいことを経験するかも知れません。嬉しい時、悲しい時、迷うこともあるに違いありません。そのような時、いつでも母校を思い出し、訪れてください。皆さんが過ごしたこの学舎（まなびや）や、そして先生方は、温かく皆さんを迎えてくれるはずですよ。尼崎小田高校は、そのような学校であり続けたいと強く思っています。

本日、尼崎小田高校の校門を出て、素晴らしい人生に繋がる道を、胸を張って進んでください。皆さんの新たな一歩と、それに続く未来が光輝くものとなることを心から祈念し、式辞といたします。

令和7年2月28日

兵庫県立尼崎小田高等学校長 山根 尚